

消費者が求める放射線リスクを理解するための情報とは

一般社団法人FOOD COMMUNICATION COMPASS

事務局長 森田満樹
(消費生活コンサルタント)

はじめに(ご挨拶) FOOD COMMUNICATION COMPASSは
科学的根拠に基づく食情報を提供する消費者団体です

* 活動の目的

消費者団体・事業者・行政・研究者と連携しながら科学的根拠に基づく情報発信を行うことで、消費者が冷静に食の問題に対処できる社会を作るために活動をしています。

* 主な活動

ウェブサイト「FOOCOM.NET」で、食情報を無料で広く発信しています。活動を支援して下さる有料会員には、メールマガジンで詳細情報を届けています。また、会員向けセミナーを定期的開催しています。



<http://www.foocom.net/>

代表・編集長 松永和紀
(科学ライター)

事務局長 森田満樹
(消費生活コンサルタント)

食の安全に関する情報を理解するために

食品の安全に関する膨大な情報があふれていて、その中には不安になってしまうものもある。何が正しいのか、判断が難しくなっている



国、研究者、事業者などから適切な情報が発信されている



ところが、その情報が消費者になかなか届いていないのでは？

リスクに関する科学的かつ客観的な情報を、互いにやり取りすることで、理解を深める「リスクコミュニケーション」が重要になっている

2

放射線リスクに関する科学的根拠に基づく情報を消費者団体として発信してきました（下記タイトルは一例です）

◆ 2011年

- ・食品安全委員会が出した「生涯累積線量100mSv」が抱える問題点
- ・「1日2杯の味噌汁が効く」は本当ですか？ 放射能汚染のトンデモ科学に騙されないために

◆ 2012年

- ・放射性物質 新基準値案はどう設定された？
- ・放射線リスクに対処するには、総合的な情報提供と共有、意見交換が必要

◆ 2013年

- ・米の放射性セシウム数値が示す農家の努力、科学者の献身
- ・福島のお米「天のつぶ」とメディアツアー

◆ 2014年

「放射性物質は心配ない。なのに…～わかめをめぐる9つのストーリー」
養殖わかめは、海の表層でゆらゆら。だから、放射性物質汚染は考えにくい
など

3

セミナーをとおして放射線リスクや、リスクコミュニケーションについて一緒に考えてきました

◆ 第1回セミナー(2013年4月)

「安全な食べもの」ってなんだろう～食品中の発がん物質について
国立医薬品食品衛生研究所安全情報部第三室長 畝山智香子さん

◆ 第3回セミナー(2013年9月)

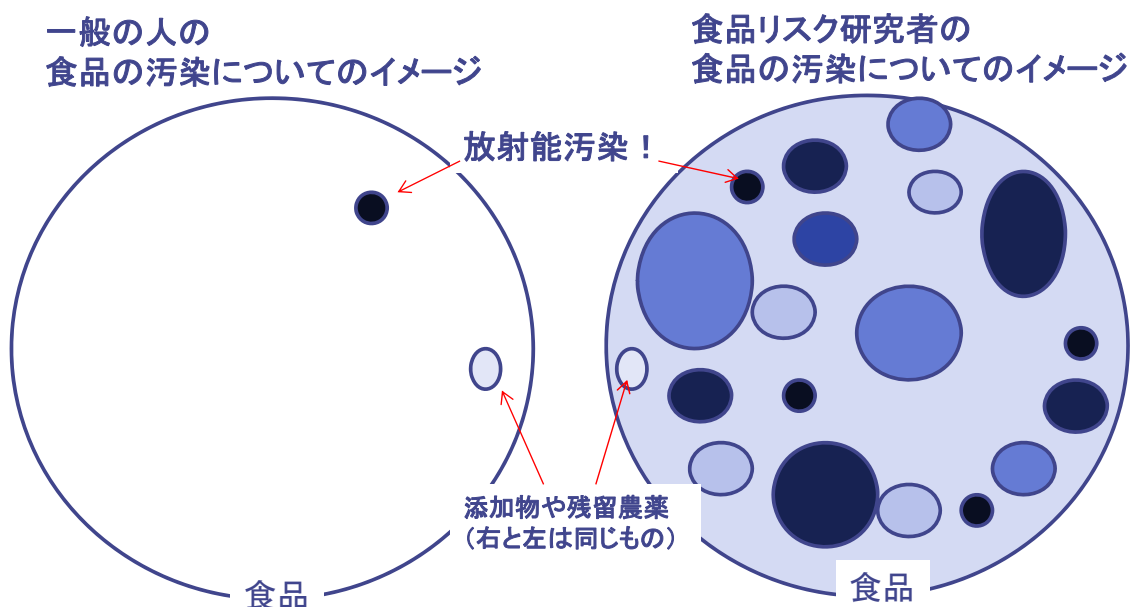
科学報道の問題点～どのように変えていけるのか？
毎日新聞社水と緑の地球環境本部長 斗ヶ沢秀俊さん

◆ 参加者から寄せられた意見から

- ・ リスクのイメージを俯瞰してとらえる畝山さんの考え方を、もっと学校教育の家庭科の場で伝播していきたい
- ・ 新聞記事などに掲載される不適切な専門家のコメントについて、そこに市民から意見を出して双方向のやり取りができるような、紙面審査会などの仕組みが必要ではないか
- ・ 放射線リスクの科学は平凡な事実しかないが、それを誰がどう伝えるが重要だと思う

4

イメージで表現すると(第1回セミナー資料より)



5

食品における放射線リスクを たくさんの人が理解するために

- ◆ 放射線リスクを理解するには、細かいデータを読みとく顕微鏡の目と、リスク全体を理解する俯瞰する鳥の目の両方が必要
 - ◆ 放射線リスクのみでなく、食品の発がんリスクについて知り、食べものの現実的なリスクが考えられる力を身につける
 - ◆ 過剰な情報・一面的な情報に惑わされないよう気をつける情報リテラシーを身につける
- 新しい情報を盛り込みながら、国、研究者、事業者などがリスクコミュニケーションを継続すること、消費者が関心をもち参加することが、風評被害対策につながる